I 学修のポイント

(通信制) 連合国際協力研究科 国際協力専攻

5. 地球環境問題と国際社会(大下 浩司)

7. 国際協力における研究方法(城山 光子)

6. 経済発展モデルの普遍性と多様性~地域を見る「目」を養う(濱島 敦博)

(通信制)連合国際協力研究科 国際協力専攻					
科目名	国際協力総論 開講年次 授業形態 単位数 1年 TS科目 4単位				
担当教員	秋 葉 敏 夫 末 吉 秀 二 武 徹 松 葉 隆 司 大 下 浩 司 濱 島 敦 博 城 山 光 子				
テ ー マ	人間開発および国際協力の現状と課題				
使用するテキスト	 (1) 『国際協力学』高木 保興 東京大学出版会 2004年,その他概論書(適宜) (2) 『人間開発報告書2015 人間開発のための仕事』国連開発計画(UNDP) UNDP駐日代表事務所のWebsiteなどを参照 (3) 『国際協力研究』国際協力機構(JICA)国際協力総合研修所 『国際開発研究』国際開発学会 				
講義概要・ 一般目標					
到達目標	国際協力,人間の安全保障,MDGs,SDGsについて理解できるようになる。また,自分の研究が 国際協力のどこに位置づけされるかが分かるようになる。				
評価方法	課題レポート30%,スクーリング参加度30%,科目修了試験40%により総合評価する。				
オフィスアワー	講義終了後, または E メールを使用して実施する。土曜日 09:30~18:30				
学 修 の 進 め 方	多くの本,論文を読んで,課題に取り組むこと。レポートには自分の考え,考察を必ず記述すること。スクーリング講義のテーマにあわせ予習をし,積極的な参加を期待する。 フィードバックとして,提出された課題レポートにコメントを付し返却する。				
教 員 メールアドレス	sueyoshi@kiui.ac.jp				
スクーリング学修計画					
1. 国際協力と保健(秋葉 敏夫)					
2. 開発とし	2. 開発とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ:現状と課題(末吉 秀二)				
3. グローハ	3. グローバルサウスにおける貧困・格差問題:現状と課題(武 徹)				
4. 地球規模	4. 地球規模で考える感染症対策(松葉 隆司)				

課題内容							
	レポート課題	SDGと日本の国際協力の意義					
第 1	レポート作成の ポ イ ン ト	テキスト(1)および参考文献をもとに,「日本の国際協力の意義」について論じなさい。とくに現代世界の政治・社会・経済情勢を把握した後,一般的な国際協力の意義や方法とともに,SDG達成に向け,日本が担うべき国際協力について考察すること。以下の参考文献以外の文献を引用しても構わない。(A4 3頁以内)					
回	参考文献	『ポスト・クライシスの世界』田中 明彦 日本経済新聞出版社 2009年,『国際協力 新版-その新しい潮流』下村 恭民ほか共著 有斐閣 2009年,『グローバル・コモンズ』遠藤乾編集 岩波書店 2015年					
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)					
星	夏期スクーリング	(対面授業) ※講義概要・スクーリング学修計画を参照のこと					
	レポート課題	21世紀の人間開発の向上と持続性					
	レポート作成の ポ イ ン ト	90年から国連開発計画(UNDP)が発刊している「人間開発報告書」は,世界の間開発の動向を系時的に理解するには有用な資料である。テキスト(2)および考文献を読み,世界の多様性にもとづき,これからの人間開発の向上と持続性とって重要と思うことを論考しなさい。以下の参考文献以外の年に発刊された告書または他の国際機関が発刊する資料を参考にするのも可。(A4 3頁以内)					
第 2 回	参考文献	『人間開発報告書1994 人間の安全保障』 (http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1994_Japanese_Version.pdf) 『人間開発報告書1995 ジェンダーと人間開発』 (http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1995_Japanese_Version.pdf) 『人間開発報告書1999 グローバリゼーションと人間開発人間の安全保障』 (http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1999_Japanese_Version.pdf) 『人間開発報告書2004 この多様な世界で文化の自由を』 (http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_2004_Japanese_Version.pdf) 『人間開発報告書2007/8 気候変動との戦い-分断された世界で試される人類の団結』(http://www.undp.or.jp/hdr/pdf/release/2007-2008.pdf) 『人間開発報告書2013 南の台頭一多様な世界における人間開発』 (http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human_development/human_development1/hdr_2013.html)					
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)					
	レポート課題	国際協力研究の動向					
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	テキスト(3)「国際協力研究」誌(国際協力機構(JICA)国際協力総合研修所)または「国際開発研究」誌(国際開発学会)などから自分の研究分野と関連する論文1編を選び,目的・方法・結果・考察についてまとめる。論文に慣れるとともに,選んだ論文でおもしろいと思ったことや今後の自分の研究に応用できそうなことなどを記述する。(A4 3頁以内)					
回	参考文献	「国際協力研究」および「国際開発研究」の論文は以下のURLから入手できる。 https://www.jica.go.jp/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publicatio n/archives/jica/kenkyu/kikan_04.html http://jasid.org/journal/journal_backnumber/					
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)					
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。					

科目名	国際看護・母子保健学特論	担当教員	柳	生	文 宏	開講年次 1・2年	授業形態 T科目	
テーマ	国際的な視点に立ち、国際看護や母子保健における実践や研究に役立つよう看護職の果たす役割について考える。							
使用するテキスト	国際看護学 : 看護の統合と実践 : 開き 改訂版. PILAR PRESS , 2017.8	発途上国への	力看護	実践る	を踏まえ [、]	て / 柳澤	壁里子編著	Ė.
	国際看護学入門 / 国際看護研究会編	医学書院						
	グローバリゼーションにより「ヒト・	モノ・カネ	・情報	寝」が	国境を起	遠 えて自由	に行き来	そするよ
	 うになるにつれ, 輸入感染症や人々のラ	ライフスタイ	゚ルが	変わる	ることに。	よって生活	舌習慣病と	といった
	 健康課題が世界中で増えてきた。この。	ように大きく	′変化	しつつ	つある複数	雑な環境の	か中で、1	貧凩な
講義概要・							,	
一般目標	と健康に影響を与えるような格差を解消し、2.異なる文化を持つ人々へのケアを行う、という2							
	つの視点から国際看護・母子保健学を学ぶ。本講義では、これらの2つの視点で今まで受講生が							
	行ってきた実践や経験を振り返りつつ専門家として必要とされる知識や考えを総括し,今後,ど 							
	のようにして国際社会に貢献できるか [,]	を具体的にす	5祭 9	් ර				
	1) 国際手業・母子保健学の甘醂を砕立	再胆幼生	口勢な	33/但 7				
	1)国際看護・母子保健学の基礎を確立し、専門的知識を習得する。							
到達目標	2)自らの実践について整理し、国際看護学の視点から理解する。							
	3)国際社会への貢献について具体的に ⁵ 	芳祭りる。						
評価方法	評価方法 課題レポート80%,科目修了試験20%により総合評価。							
オフィスアワー	オフィスアワー Eメールを使用して実施します。							
学 修 の 進 め 方	下書きができた時点でメールで仮提出 でに提出してください。 フィードバックとして,提出された課						た後、提出	出期限ま
教 員 メールアドレス	fyagyu@gmail.com							

	レポート課題	今まで受講生が行ってきた実践や経験を国際看護学の2つの視点からまとめる。			
第 1 回	レポート作成の ポ イ ン ト	指定されたテキストを精読し,2 つの視点についてよく理解する。			
	参考文献	国際看護学: 看護の統合と実践: 開発途上国への看護実践を踏まえて / 柳澤理子編著 改訂版. PILAR PRESS , 2017.8 国際看護学入門 / 国際看護研究会編 : 医学書院			
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)			
	レポート課題	受講生の興味, これまで行ってきた実践や研究テーマに合わせて, 文献等を 検索・選定し, それらをまとめ検討する。			
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	教員と連絡をとり,文献を選定すること。			
	参考文献	適宜指示する。			
	レポート提出期限	令和4年年9月30日(木)			
	レポート課題	受講生の興味, これまで行ってきた実践や研究テーマに合わせて, 文献等を 検索・選定し, それらをまとめ検討する。			
第 3 回	レポート作成の ポ イ ン ト	教員と連絡をとり,文献を選定すること。			
	参考文献	適宜指示する。			
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)			
提	出方法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。			

科目名	国際関係特論 担当教員 武 開講年次 授業形態 単位数 1・2年 T科目 4単位
テ ー マ	国際関係に関する諸理論を念頭に、紛争・内戦、貧困・開発、開発協力といった諸課題について考察する。
使用するテキスト	国際紛争:理論と歴史(原書第10版)ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイビッド・A・ウェルチ著(田中明彦、村田晃嗣訳)有斐閣 2017年 Jon C.W. Pevehouse and Joshua S. Goldstein〈2021〉International Relations(Twelfth Edition)Pearson 国際関係学(第3版) 滝田賢治 大芝亮 都留康子 有信堂 2021年 最底辺の10億人 ポール・コリア著(中谷和男訳)日経BP 2007年 国家はなぜ衰退するか(上・下) ダロン・アセモグル、ジェイムス・A・ロビンソン著(鬼澤忍訳)早川書房 2012年 貧乏人の経済学 A・V・バナジー、E・デュフロ著(山形治生訳)みすず書房 2012年
講義概要・ 一般目標	本講義では、①開発途上国における紛争・内戦、②開発途上国の貧困と開発、③ドナーによる開発協力の3つの課題に焦点を当て、国際的な政治経済社会の環境と開発途上国が直面する諸問題との関係や、グローバルな課題とドナーの国益との関係についての理解を深めることを目標とする。
到達目標	国際協力に関する実務に携わる際に、現場の視点のみならずグローバルな視点に基づく問題 分析ができるようになる。
評価方法	課題レポート40%,科目修了試験60%により総合評価する。
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。
学 修 の 進 め 方	レポート提出に関して,提出期限の1か月前までに素案を作成し,メールで提出してください。 コメントを付して返送しますので,コメントを踏まえた修正を行い,期限までに提出してく ださい。不明な点があれば,メールで相談してください。また,レポートには引用文献を明 記してください。
教 員メールアドレス	take@kiui.ac.jp

	課題内容				
	レポート課題	開発途上国における具体的な紛争や内戦の事例を1つ取り上げ,下記の参考文献(日本語文献のみでも可)を参照してその発生要因を個人レベル,国家レベル,システム・レベルの3つの視点から論じなさい。			
第	レポート作成の ポ イ ン ト	発生要因を説明する理論をいくつかレビューし,取り上げた事例についてどの理論が有効か検討すること。下記参考文献以外の文献も必要に応じて参照すること。			
1	参考文献	国際紛争:理論と歴史(原書第10版)第2章 ジョセフ・S・ナイ・ジュニア,デイビッド・A・ウェルチ著(田中明彦,村田晃嗣訳)有斐閣 2017年 Jon C.W. Pevehouse and Joshua S. Goldstein〈2021〉International Relations (Twelfth Edition)第5章 Pearson 比較政治の考え方 第6章 久保慶一,末近浩太,高橋百合子著 有斐閣ストゥディア 2016年			
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)			
	レポート課題	援助等を通じて国際的な富の再分配が行われているが,必ずしも開発途上国国内の所得の再配分には結びついていない。その理由について論じなさい。			
	レポート作成の ポ イ ン ト	下記の文献の議論を整理するだけでなく,自身の主張も展開すること。			
第 2 回	参考文献	最底辺の10億人 ポール・コリア著(中谷和男訳)日経BP 2007年 国家はなぜ衰退するか(上・下) ダロン・アセモグル,ジェイムス・A・ロビンソン著(鬼澤忍訳)早川書房 2012年 貧乏人の経済学 第10章 A・V・バナジー、E・デュフロ著(山形治生訳)みすず書房 2012年 傲慢な援助 ウィリアム・イースタリ―著(小浜裕久,織井啓介,富田陽子訳) 2006年 東洋経済新報社			
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)			
	レポート課題	日本の政府開発援助において近年国益が重視されている背景を説明の上,国際的な開発課題の達成と国益の追求をどのように両立させたらよいが自分の意見を述べなさい。			
	レポート作成の ポ イ ン ト	議論に際しては,国益の定義を整理すること。また,下記以外の文献も適宜参照すること。			
第 3 回	参考文献	国際協力機構史 1999~2018 第1部第2章 JICA機構史編纂事務局編 2019年 (下記URLを参照) https://www.jica.go.jp/about/history/index.html 「日本の開発協力の歴史」バックグラウンドペーパーNo.4, No.8(下記URLを参照) https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/other/20180925_01.html 私たちが国際協力する理由:人道と国益の向こう側 紀谷昌彦,山形辰史 2019 年 日本評論社			
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)			
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。			

	111 # F / 177 # 174 # 174 # 1				
科目名	国際ボランティア特論 担当教員 乾 直 樹 1・2年 T科目 4単位				
テーマ	国際協力の場面で求められる国際ボランティアの役割, 資質を理解し, その上で実践的な課題 解決能力を養う				
使用するテキスト	① 『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』巡 静一,早瀬 昇,中央法規,1997年 ② 『2018 State of the World's Volunteerism Report The thread that binds - volunteerism and community resilience』 United Nations Volunteers(UNV), 2018年 (https://www.unv.org/publications/swvr2018より入手) ③ 『国際ボランティアの世紀』 山田恒夫編著,放送大学教育振興会,2014年				
講義概要・ 一般 目標	国際ボランティアは一般市民が参加する活動であり、市民が国際社会に目を向け、その課題解決に自ら関わることを期待されている。また国際ボランティア活動は、グローバル化した市民社会の形成に大きな役割を果たすと考えられている。本科目では、以下の三つの視点より、国際ボランティアの意義、内容、実態と課題についての理解を深めることを目標に、現代社会における国際ボランティアおよびボランティア運営組織としての在り方を学ぶ。なお以下の(1)~(3)は、レポートの第1回~第3回にそれぞれ対応する。 (1) ボランティアの視点からみた動機、意義、実態と活動継続にあたっての課題への理解(2) 支援先から見た視点 -関係性についての理解- (3) 国際ボランティアに必要なコアコンピテンシーとNGOが抱える実際的課題への対応				
到達目標	(1) ボランティアとはなにか、ボランティアの視点からみた動機、意義を説明できる。またボランティアの活動実態を踏まえ、活動参加の動機と参加継続を阻害する因子を説明できる。 (2) 支援先(支援を受ける側のコミュニティ、住民)からみたボランティアの意義や社会的役割、ボランティアが現地にもたらす変化に配慮し、外部者がコミュニティーにもたらす課題を踏まえ、"あるべき支援の姿"と外部者の役割や、支援者と支援先との非対称性について説明できる。 (3) 国際ボランティアとしての実践的スキルの習得として、国際ボランティアに必要なコアコンピテンシーを整理し、その上でNGOが抱える運営上の実際的な課題に対して、ケーススタディーにより実践的な課題解決が実施できる。 とりわけ、国際ボランティアを自らのキャリアとのかかわりの中で、その役割と資質及び専門スタッフとの協働のあり方につき、多面的、実践的に考え行動できる能力を習得することを目指す。				
評価方法	課題レポート50%,科目修了試験50%により総合評価(テキストおよび参考文献の理解度と個の専門分野に携わる国際ボランティアとの協働の現場における実践的な課題解決力の醸成度)				
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。				
学修の進め方	 1、まずテキストおよび参考文献(図書)を熟読ください。 2、レポート課題は、国際ボランティアを取り巻く環境を踏まえ、多面的な視点への理解を深める意図をもって設定しています。自身の活動している分野、フィールドとの関わりの中で、国際ボランティアが果たすべき役割と課題につき、問題意識を涵養ください。 3、レポート提出につき、必ず個々の提出期限の一か月前までにメールで仮提出し、返送されたコメントを参考に再検討し、提出ください。不明な点あれば、メールにて相談のこと。 				
教 員 メールアドレス	inui.naoki.3n@kyoto-u.ac.jp				

第 1 回	レポート課題 レポート作成の ポ イ ン ト	(1) ボランティア (活動) の要件を3つ以上挙げて説明し、そのうえで国際協力に関わる国際ボランティアに特に特徴的な要件を、あなたが関わる地域(国)あるいは活動分野で活動する国際ボランティアの事例を挙げて論じよ。 (2) 「ボランティア活動は善行ではない」という考えがあるがその主張の論点の理由を述べるとともに、国際ボランティアが直面する活動現場での実態をイメージして、この主張に対するあなた自身の考えとその理由を述べよ。 (3) ボランティア自身の参加動機の要因解析に関する学術論文を1報挙げて要約すると共に、ボランティアの継続阻害の課題とされる「バーンアウト(燃えつき)」と動機の関連性に関する調査研究の論文を考察し、バーンアウトを防ぐ方策につき、あなたの考えを述べよ(国際ボランティアに限らなくてもよい)。 テキスト①及び以下の参考文献を読み、種々の学説を理解した上で、自身の経験も踏まえて、自身の考えを述べよ。			
	参考文献	『国際ボランティア論 世界の人びとと出会い,学ぶ』内海成治・中村安秀編著, ナカニシヤ出版,2011年 『ボランティアを生みだすもの 利他の計量社会学』三谷はるよ著,有斐閣,2016 『人を助ける心 援助行動の社会心理学』高木修著,サイエンス社,1998			
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)			
第 2	レポート課題	(1) あなたの活動分野や活動地域等において活動している国際ボランティアの活動事例とそのボランティアが現地にもたらした変化(得失)を挙げ、その活動者が掲げる目標、"あるべき姿"を記述せよ。そのうえでその活動に対してコミュニティの住民より期待されていること、および住民ニーズを踏まえた実際的な課題(あるべき姿と、現状および住民ニーズとのギャップ)を述べよ。(2)(1)の深堀りとして(1)に記載したコミュニティが抱える経済、政治および社会的な課題を列記し、その解決のために外部支援者が果たすべき役割、支援のあるべき姿につき、以下の語句を理解の上引用し、あなたの考えを論じよ。グローバル化 工業化 都市化 貧困と格差 社会的弱者 環境破壊小さな政府 共助 エンパワーメント ソーシャル・キャピタルアドボカシー 関係の非対称性 相互理解 内発的発展 外部者の役割			
回	レポート作成の ポ イ ン ト	テキスト②および以下の参考文献の内容を理解した上で,あなた自身の活動地域 (分野)において,支援者が果たすべき役割と課題を整理してください。			
	参考文献	『開発援助の社会学』 佐藤 寛,世界思想社,2005 『ボランティア活動の論理 ボランタリズムとサブシステンス(改訂版)』西山志 保,東信堂,2007 『ボランティア論 共生の理念と実践』田村正勝編著,ミネルヴァ書房,2009年			
	レポート提出期限	令和4年9月30日(木)			
第	レポート課題	(1) あなたの活動分野(地域),所属組織がボランティアを受け入れる場合,そのボランティアの役割,業務内容,期間等の具体的なプランを提案し,その上で,そのボランティアの業務遂行に必須のコアコンピテンシーを5つあげ,その能力の水準と,当該水準に未達の場合の能力修養の方法,及びその理由を述べよ。(2)あるNGO所属のボランティアに関する意識調査レポートを別紙に示す。この組織が抱える主な課題を三つあげ,あなたがボランティアコーディネーターだとしたら,どのような対策を取るか,アクションプランにつき,短期(1年)と中期(数年)に分け,目標と対策につき,その理由とともに記述せよ。			
3	レポート作成の ポ イ ン ト	テキスト③および以下の参考文献の内容を理解した上で、国際協力の組織におけるボランティアマネージメントの実践的な課題解決方法を考えてください。			
	参 考 文 献	『ボランティア・NPOの組織論 非営利の経営を考える』 田尾雅夫・川野祐二編著,学陽書房, 2004 『2015 State of the World's Volunteerism Report: Transforming Governance』 United Nations Volunteers(UNV), 2015 (インターネットよりダウンロード)			
	レポート提出期限	令和4年12月10日 (土)			
提	出方法	web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。			

					1-2 1112 - 1 114	11. / L 14/
科目名	国際協力特論	担当教員	橋本田紀子		授業形態 下科目	単位数 4単位
テ ー マ	(1) ソーシャル・ビジネスと社会開発 (2) ジェンダーと開発 (3) 内発的発展 (4) 企業の社会貢献CSR					
使用するテキスト	1. ムハマド ユヌス (著), 岡田 昌治 (監修)「ソーシャル・ビジネス革命」早川書房 (2010) 2. 開発教育2010 Vol.57—オルタナティブな経済と開発教育―開発教育協会『開発教育』編集委員会 (編集)明石書店 (2010) 3. 江原裕美 (2003)「内発的発展と教育」新評論 4. 江原裕美 (2011)「国際移動と教育」明石書店 5. 菅野琴 他(2012)「ジェンダーと国際教育開発―課題と挑戦」福村出版 6.『移民の経済学』ベンジャミン・パウエル編/藪下 史郎監訳/佐藤 綾野訳/鈴木 久美訳/中田 勇人訳 東洋経済 2016 テキスト以外に独自に資料を収集し、独自の意見を含めた独自性のあるレポートを歓迎します。					
講義概要· 一般目標	これまでの開発理論の系譜を理解する。その変遷の経過と背景を再検討し、様々なオルタナティブな開発理論が提唱されるようになった背景から、それらの特徴を理解する。 オルタナティブな開発理論を基礎に、開発における人間開発論、住民のエンパワーメント、内発的発展論、住民参加型と連帯、持続可能な発展、企業の社会的責任の社会開発への貢献の特徴を理解し、それぞれの理論における具体的実践方法を習得し、可能性と課題を考える。そのうえで、実践の際にどのような選択肢を選び、運営するかを提案できる能力を習得する。					
到達目標	これまでの開発理論の変遷と背景を理解し、それぞれの理論の特徴、欠点、利点が指摘できるようになる。現在注目を浴びているオルタナティブな開発理論のそれぞれの違いを指摘できる。それら理論が適用できる社会開発上の環境や背景を抽出し、具体的実践の場で、運営実施方法を提案できるようになることを目標とする。				できる。	
評価方法	3回のレポート 50%,科目修了試験 30%,レポート提出に際しての事前の交信の密度 20%					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の進 め 方	レポート提出に関して,事前にメールで仮提出を行い,コメントを参考に修正し提出すること。 A4 4枚程度におさめ,節に分けて見出しをつけ,目的,結論を明確に記述すること。 参考資料,引用文献はレポートに記載すること。 フィードバックとして,提出された課題レポートにコメントを付し返却する。					
教 員 メールアドレス	橋本由紀子:yhashimt@kiui.ac.jp					

	課題内容					
第	レポート課題	ソーシャル・ビジネスは途上国の社会開発に貢献できるか,事例を挙げてのべよ。				
	レポート作成の ポ イ ン ト	開発途上国におけるソーシャル.ビジネスの事例を2件あげ,成功要因,失敗要因を基に,ソーシャル・ビジネスは発展途上国の貧困問題を解消できるかについて,独自の考えを理論的根拠とともにまとめる。A4 4枚以内に収める。				
1	参考文献	ムハマド ユヌス (著), 岡田 昌治 (監修) ソーシャル・ビジネス革命 早川書房 (2010) 玉村雅敏「ソーシャルインパクトー価値共創(CSV)が企業・ビジネス・働き方を変える」(2014)産学社 その他独自に文献検索を行い,資料収集すること。				
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)				
	レポート課題	当事者主体,住民自立の視点から,開発途上国の社会開発における企業の社会的 責任(CSR)の果たす役割と可能性,課題について述べよ。				
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	テキストや文献を参考に企業の社会的責任CSRの概念を述べ,事例を2つ以上あげ, CSRが途上国の社会開発に果たす役割と可能性,課題を述べよ。A44枚以内に収め る。				
回	参考文献	開発教育2010 Vol.57―オルタナティブな経済と開発教育―開発教育協会『開発教育』編集委員会 (編集)明石書店 (2010) その他独自に文献検索を行い,資料収集すること。				
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)				
	レポート課題	オルタナティブな発展としての内発的発展を定義し,内発的発展の目的に合致した成功的取り組み事例を2つ以上上げ,国際社会が学べる点を提案せよ。 また,内発的発展との比較として保護主義を定義し、保護主義と内発的発展の違いを述べよ。				
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	テキストや文献を参考に内発的発展の視点から,東南アジアやアフリカ,欧米諸国の取り組み例を参考に,出稼ぎ,土着文化の尊重,グローバル化の弊害,教育やジェンダーに焦点を当て成功的取り組みの要因と課題を述べよ。また,保護主義と内発的発展の相違点を挙げよ。A4 4枚以内に収める。				
。 回	参考文献	江原裕美(2003)「内発的発展と教育」新評論 江原裕美(2011)「国際移動と教育」明石書店 菅野琴(2012)「ジェンダーと国際教育開発―課題と挑戦 」福村出版 『移民の経済学』ベンジャミン・パウエル編/藪下 史郎監訳/佐藤 綾野訳/ 鈴木 久美訳/中田 勇人訳 東洋経済 2016 その他独自に文献検索を行い,資料収集すること。				
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)				
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。				

リーがかなり異なっている。その中でも権威をもって受け入れられているのが,「バッシ際保健学講座」である。この本はいささか内容が古くなってきているが,単に保健衛生目ばかりでなく,文化,歴史,社会,政治など,幅広い観点から保健にまつわる問題をあ					
使用する テキスト 「バッシュ 国際保健学講座」 じほう 梅内拓生監修 PHC開発研究会翻訳 (この本は絶版になっておりますので、教員が受講者希望者には貸与します。講座終了却してもらいます。) 国際保健学にはさまざまな切り口があり、この分野の書籍も、識者によってあつかうリーがかなり異なっている。その中でも権威をもって受け入れられているのが、「バッシ際保健学講座」である。この本はいささか内容が古くなってきているが、単に保健衛生目ばかりでなく、文化、歴史、社会、政治など、幅広い観点から保健にまつわる問題をあ					
(この本は絶版になっておりますので、教員が受講者希望者には貸与します。講座終了 カしてもらいます。) 国際保健学にはさまざまな切り口があり、この分野の書籍も、識者によってあつかう リーがかなり異なっている。その中でも権威をもって受け入れられているのが、「バッシ 際保健学講座」である。この本はいささか内容が古くなってきているが、単に保健衛生 目ばかりでなく、文化、歴史、社会、政治など、幅広い観点から保健にまつわる問題をあ					
リーがかなり異なっている。その中でも権威をもって受け入れられているのが、「バッシ際保健学講座」である。この本はいささか内容が古くなってきているが、単に保健衛生目ばかりでなく、文化、歴史、社会、政治など、幅広い観点から保健にまつわる問題をあ	カテゴ				
いく上で非常に有用な知識を身につけることにつながる。 本講義ではこのテキストを使い、重要と思われる章を選んで読み、理解し、自分の考とめるという形式で進めていく。読み進めるには幅の広い知識が必要とされるが、是非ンジしていただきたい。扱う章は以下の通りである。 第1章:保健の未来に対する4つの基本的見解 第2章:1900年以前の国際保健 第3章:国際保健に関わる諸機関 第4章:健康に関するデータ 第5章:データから情報へ 第6章:病気と社会的コンテキスト 第7章:危機に立つ保健 第12章:保健セクターの創設 第13章:保健セクターの創設 第13章:保健セクターを改革する 第14章:感染症、新興と再興	本講義ではこのテキストを使い,重要と思われる章を選んで読み,理解し,自分の考えをまとめるという形式で進めていく。読み進めるには幅の広い知識が必要とされるが,是非チャレンジしていただきたい。扱う章は以下の通りである。 第1章:保健の未来に対する4つの基本的見解 第2章:1900年以前の国際保健 第3章:国際保健に関わる諸機関 第4章:健康に関するデータ 第5章:データから情報へ 第6章:病気と社会的コンテキスト 第7章:危機に立つ保健 第12章:保健セクターの創設 第13章:保健セクターを改革する 第14章:感染症,新興と再興 これらの章をカバーすることにより,国際協力の保健医療分野の基本的な知識が修得でき,さ				
1. 保健医療上の問題を考えるときに、様々な視点があることが理解できる。 2. 感染症が世界史上に与えた影響を説明できる。 3. 保健医療の国際的な支援を行っていくうえで、様々な手法があることが説明できる。 4. 保健統計の重要性、扱いの難しさが理解できる。 5. 保健情報システムが担うべき役割が説明できる。 6. 文化と病気の関係に造詣を深めることができる。 7. プライマリーヘルスケアの歴史、概念が説明できる。 8. 保健セクターがどのように改革されるべきかについて意見を述べることができる。 9. 新興、再興感染症の問題を説明できる。	 2. 感染症が世界史上に与えた影響を説明できる。 3. 保健医療の国際的な支援を行っていくうえで、様々な手法があることが説明できる。 4. 保健統計の重要性、扱いの難しさが理解できる。 5. 保健情報システムが担うべき役割が説明できる。 6. 文化と病気の関係に造詣を深めることができる。 7. プライマリーヘルスケアの歴史、概念が説明できる。 8. 保健セクターがどのように改革されるべきかについて意見を述べることができる。 				
評価方法 課題レポートの評価を60%,口頭試問による科目修了試験の評価を40%として,総合的にする。	課題レポートの評価を60%,口頭試問による科目修了試験の評価を40%として,総合的に評価をする。				
オフィスアワー Eメールを使用して実施する。					
学 修 の デキストの要約だけでは合格できません。日本や世界の状況,自分の経験も踏まえて, とに自分の考えを述べることが要求されます。 フィードバックとして,提出された課題レポートにコメントを返します。					
	akiba@phoenix.ac.jp				

第 1 回	レポート課題	第1章課題 保健の未来に関する4つの基本的見解を読み,自分はどれに当てはまると思うか?その理由も述べなさい。 第2章課題 1900年以前に,感染症が人類に与えたインパクトについてまとめなさい。 第3章課題 国際保健を進めていく上で,WHOと二国間援助機関(e.g.USAID,JICAなど)の構造的,手法的違いを述べなさい。			
	レポート作成の ポ イ ン ト	2章課題に対しては下記の参考文献を読んで考察を深めること。3章課題では、WHOやJICAのホームページを参照すること。あつかう範囲が広いので、なじみのない言葉は辞書や百科事典を用いて調べるように。			
	参考文献	「銃,鉄,病原菌」(上) ジャレッド・ダイアモンド著 草思社			
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)			
	レポート課題	第4章 保健統計の必要性を論じ、その基になるデータを集める上での問題点をいくつか指摘しなさい。 第5章 保健管理情報管理システムの意義について述べなさい。 第6章 文化と病気の関係について、思うことを述べなさい。			
第 2 回	レポート作成の ポ イ ン ト	第6章は国際保健の一つの重要な分野である。下記の参考文献を読み、考察を深めること。			
	参考文献	「疫病と世界史」ウィリアム マクニール著 佐々木昭夫訳 中央文庫			
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)			
	レポート課題	第7章 「プライマリーヘルスケア」の成立に至る歴史,その意義,および問題点を述べなさい。 第12章,13章 保健セクターの問題(特に途上国)と,改革の方向について論じなさい。 第14章 新興,再興感染症の主たる問題を述べなさい。			
第 3 回	レポート作成の ポ イ ン ト	今回の課題はかなり漠然とした内容になっている。受講生は各章をよく読み、 そこで自分が考えたことを記述すること。第7章の課題では、下記の参考文献 を読んで考察を深めること。			
[-	参考文献	「いのち・開発・NGO」ディビット・ワーナー,新評論			
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)			
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。 ※提出前に必ず教員に草稿レポートをメールで送り、指導を受けること。			

						開講年次	授業形態	単位数
科目名	感染症特論	担当教員	松	葉	隆司	1・2年	T科目	4単位
テーマ	現代における感染症	現代における感染症						
使用するテキスト	わかる!身につく!病原体・感染・免 南山堂, 2020, ISBN 978-4-525-16233		秀士	編	著 目野	郁子・小島	,夫美子	著):
講義概要・一般目標	途上国や先進国を問わず、短時間に人、動植物や物が世界各地を行き来できる現代においては、病原体も容易に拡散してしまうため、地球規模で感染症対策を進めていくことが重要である。国際協力においては、現地への対策が必要なだけでなく、自身への感染防止対策も必要となる。本講では、感染症の基礎理解を深めることで、世界のどこにいても柔軟に対策を実施できるようになることを目標とする。 1) 微生物の種類・特徴と宿主防御反応について説明できる。感染症の原因病原体の種類や特徴、さらに宿主の防御機構を理解し予防につなげる。 2) 感染症の三大成立要因を理解し、感染症予防対策について説明できる。感染症発生には、(1) 感染源(2) 感染経路(3) 宿主を必要とする。これらの理解で、感染症発生や拡大への対策を論理的に考えることができるようになる。 3) 世界各地域において重要視されている各種感染症を理解し説明できる。地球規模で感染症対策を行うためには、新興・再興感染症、動物由来感染症、輸入感染症の理解が必要である。 4) 各種感染症の情報収集と予防方法について説明できる。世界のどこに暮らしていても有効な感染症対策を個人レベルでも実施できるように、各地域状況情報を収集し、現地での対策が実施することができることが必要がある。							
到達目標	国際協力の場において活用可能な感染症に対する幅広い知識を得て,実地で的確に行動できるようにする。1)感染症の基礎的事項が説明でき,2)感染予防についての基本的予防策を想起し,3)各国や地域に応じた感染症対策を実行できるようにする。							
評価方法	科目修了試験により評価。							
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。							
学 修 の進 め 方	・テキスト,参考図書やHPでの発生状 うな問題をおこしているか,どのよ [*]							ぱでどのよ
教 員メールアドレス	matsubat@phoenix.ac.jp							

		課題内容								
	レポート課題	1)病原体を分類し,各病原体の特徴・特性を説明せよ。 2)感染経路を分類し説明せよ。 3)宿主の非特異的および特異的感染防御機構はどのように働くか説明せよ。 4)感染と発病の違いについて説明せよ。								
第 1	レポート作成の ポ イ ン ト	テキスト 1)を利用する。 5000字(以内)。								
	参考文献	イラストでわかる微生物学超入門 病原微生物の感染のしくみ」斉藤 光正 ,南山堂,2018,ISBN 978-4-525-16341-9 好きになる免疫学 第2版」山本一彦 監修,萩原清文 著,講談社,2020,ISB 978-4-06-513903-5								
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)								
	レポート課題 感染症の予防法について、三大要因である(1)感染源(侵入と排出を含む)、(2 感染経路、(3)宿主感受性の対策に分けて述べよ。									
第 2 回	レポート作成の テキスト 1)を利用する。 ポ イ ン ト 5000字(以内)。									
Ι	参考文献	[看護の現場ですぐに役立つ 感染症対策のキホン 第2版] 大口祐矢 著, 秀和システム,2020, ISBN 978-4-7980-6262-4)								
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)								
	レポート課題	あなたが活動した国,活動している,あるいは今後活動したい国や地域で重要な 感染症疾患(異なる感染経路に由来する疾患)を一つ挙げ,現地情報収集結果を も含めて総合的に説明せよ。								
第 3 回	レポート作成の ポ イ ン ト	テキスト 1) および参考文献・HPを利用する。 5000字(以内)。								
	参考文献	1) 感染症大全(堤 寛 著):飛鳥新社,2020,ISBN 978-86410-757-0 2) 海外での感染症情報:https://www.forth.go.jp/index.html								
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)								
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。								

						田 进 ケ ''h	極₩ Ⅳ能	出什米
科目名	地球環境科学特論	担当教員	小	田淳	子		授業形態 T科目	
テーマ	 地球環境を自然科学と社会科学の両面が 	いら理解する	5.					
使用するテキスト	・『地球環境学入門』東樋口護,丸善出	・『改訂新版 地球環境がわかる』西岡秀三・宮崎忠國・村野健太郎,技術評論社,2015年 ・『地球環境学入門』東樋口護,丸善出版,2015年 ・『地球・環境・資源 - 地球と人類の共生をめざして - 第2版』内田 悦生・高木 秀雄編,共立 出版,2019年						
講義概要・ 一般目標	地球環境は、自然環境とそれに影響を 境のつながりを究明するのが、地球環境 処方法を考えるためには、自然科学と人 本講では、まず、自然科学の立場から 上で、地球環境と人間の関わり方を科学 考え方で環境と向き合い、行動するべき 持続可能な生存について考察する。	意学である。 、文・社会和 ら地球環境の 学的に捉え,	, した 科学の の現状 地球	がって 知識と につい 環境問	,地球技能がいて正し 関の解	環境を理 必要である く把握・ 決に向け	解し環境 る。 認識する て,ど <i>の</i>	於への対 5。その 0ような
到達目標	 1)地球の環境について、自然科学的側面から学ぶと共に、人間社会と環境との関わりを社会科学的観点から理解し、説明できる。 標 2)環境と環境問題に関する知識を身につけ、環境問題の解決における科学技術の使い方、社会・経済システムのあり方について、深く考察できる。 3)環境問題の解決に向けて自ら行動できるようになる。 							
評価方法	提出課題レポート (50%), 科目修了試	験(50%)	により	り総合的	的評価を	行う。		
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。							
学 修 の進 め 方	「下級にコたっては、レホート下級のホーラーと組みたた工で下級することが主要です。							
教 員メールアドレス	junoda618@gmail.com							

		課題内容
	レポート課題	 地球環境問題について,ポイントを踏まえながら歴史的経緯をまとめなさい。
第 1	レポート作成の ポ イ ン ト	地球誕生から人間活動が大きくなる以前の地球環境はどのような状況であったのか、その後人間活動が地球システムにどのような影響を与え、環境問題がどのように顕在化したのかについて、過去から現在までの時間軸でまとめること。文末に、引用文献リストを付けること。(A4用紙、40字×35行、4枚程度)
回	参考文献	・『環境に挑む歴史学』水島司(編), 勉誠出版, 2016年 ・『地球環境問題概説』逸見謙三, 筑波書房, 2009年 ・提示されたテキストの他に, 関連の研究論文, その他の参考書などの資料。
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
	レポート課題	地球環境問題と人間活動の関わりついて,ポイントを踏まえながら自然科学と 社会科学の両視点から論じなさい。
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	環境科学を定義した後,地球環境問題を4区分「大気系・水系(河川・海洋)・生態系(生物・森林)・生活系」に分けて,人間活動の関わりを入れながら,問題発生の要因,現況と課題,解決のありかたについて,まとめること。文末に,引用文献リストを付けること。(A4用紙,40字×35行,4枚程度)
回	参考文献	・『地球環境テキストブック 環境科学』吉原利一編,オーム社,2010年 ・『環境科学入門第2版 地球と人類の未来のために』川合真一郎・張野宏也・ 山本義和,化学同人,2018年 ・『改訂新版 地球環境がわかる』西岡秀三・宮崎忠國・村野健太郎,技術評 論社,2015年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
	レポート課題	東アジア, ヨーロッパ, 北米等から, 地球規模レベルの範囲で拡大する「長距離越境大気汚染の問題」について, レポート作成のポイントを踏まえてまとめなさい。
第 3 回	レポート作成の ポ イ ン ト	現代の著しい経済活動により大気汚染問題は発生地域に留まらず,国境を越えた越境汚染の問題に拡大している。越境大気汚染の対象物質4点(酸性雨,対流圏オゾン,PM2.5, POPs)のそれぞれについて,発生源や発生地域,健康影響,汚染の現況,国際的な影響範囲,国際間の対策を入れながらまとめること。(A4用紙,40字×35行,4枚程度)
	参考文献	・『環境科学入門第2版 地球と人類の未来のために』川合真一郎・張野宏也・山本義和,化学同人,2018年 ・『越境大気汚染の物理と化学』藤田慎一,成山堂書店,2014年 ・国立環境研究所:越境大気汚染に関する研究の刊行物
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	環境管理学特論	担当教員	大	下	浩 司		授業形態	
	TOTAL STATE	3			1・2年	T科目	4単位	
テーマ	環境の捉え方を理解し,持続可能な地	球社会の構築	築方法	を考	える。			
使用するテキスト	・『地球環境の教科書10講』九里徳泰・	・『SDGs時代の教育』北村友人・佐藤真久・佐藤学、学文社、2019年 ・『地球環境の教科書10講』九里徳泰・左巻健男・平山明彦、東京書籍、2014年 ・『持続可能な社会論』矢口芳生、農林統計出版、2018年						
講義概要・ 一般目標	- 「人ナム,人口垣川,さりには人切土さ力によりて引き起こされているここつにのる。							
到達目標	1. 地球環境問題の本質を理解し、その 2. 持続可能な開発目標(SDGs)に挙しる。 気候変動問題とエネルギー利用の 4. 環境問題の現状を理解し、持続可能を 1. 環境問題の現状を 1. またいまたいまた。 1. またいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいまたいま	ずられる環境 関係を論じる	意問題	の解	決方策を きる。	提言でき		
評価方法	レポート課題60%,科目修了試験40%	こより総合的	 的評価	iする	0			
オフィスアワー	Eメールを使用し実施する。							
学修の進め方	レポート課題を作成する場合には、提示している参考文献をしっかり読み込んでください。 そして、課題に関係する事象についても調べましょう。レポートの作成は、参考文献およびそれに関係する事象について十分に理解した上で行うことが大切です。 フィードバックとして、提出されたレポート課題にコメントを返します。							
教 員 メールアドレス	oshita@kiui.ac.jp							

		課題内容			
	レポート課題	持続可能な開発目標(SDGs)の達成におけるESDの意義と役割			
第 1 回	レポート作成の ポ イ ン ト	持続可能な開発目標(SDGs)を説明し、SDGsに挙げられる環境問題に関係した目標についても説明しなさい。そして、SDGsの達成におけるESD(Education for Sustainable Development)の意義と役割を考察しなさい。テキストだけでなく他の文献も参考にし、レポートを作成すること。参考または引用した部分の出典を明記し、文末には文献リストを付けること。			
	参考文献	・『SDGs時代の教育』北村友人・佐藤真久・佐藤学、学文社、2019年 ・提示したテキストの他に,関連の文献やインターネットを利用して,自ら情報 収集すること。			
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)			
	レポート課題	エネルギーの管理と気候変動問題への対応			
第 2 回	レポート作成の ポ イ ン ト	気候変動の問題は、エネルギーの利用による二酸化炭素の排出が原因の一つとなっている。エネルギーの利用と気候変動問題の関係を述べ、気候変動の問題を解決する方法を論じなさい。テキストだけでなく他の文献も参考にし、レポートを作成すること。参考または引用した部分の出典を明記し、文末には文献リストを付けること。 A4、40字×35行、4枚程度を目安とする。			
	参考文献	・『地球環境の教科書10講』九里徳泰・左巻健男・平山明彦,東京書籍,2014年 ・提示したテキストの他に,関連の文献やインターネットを利用して,自ら情報 収集すること。			
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)			
	レポート課題	持続可能な社会構築のために必要な環境問題の解決策			
第 3 回	持続可能な社会とはどのような社会かを説明し、「持続可能な社会」を作 げるときにどのような課題があるのかを示し、その課題のうち特に環境に関 レポート作成の ポ イ ン ト				
비	参考文献	・『持続可能な社会論』矢口芳生,農林統計出版、2018年 ・提示したテキストの他に,関連の文献やインターネットを利用して,自ら情報 収集すること。			
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)			
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。			

								1
科目名	循環型社会学特論	担当教員	小	田	淳子	開講年次 1・2年	授業形態 T科目	単位数 4 単位
テーマ	人類が大量廃棄の時代を経て残した負の遺産というべき環境への悪影響を反省し,21世紀の循環型社会に改善・改革を促すための基本的かつ応用的な手法を理解する。							
使用するテキスト	・『循環型社会評価手法の基礎知識』田中 技報堂出版,2007年	・環境省平成24~令和3年版『環境・循環型社会・生物多様性白書』,環境省編,2012~2021年 ・『循環型社会評価手法の基礎知識』田中勝編著,松藤敏彦・角田芳忠・石坂薫著, 技報堂出版,2007年 ・『循環型社会をつくる』鷲田豊明編,笹尾俊明編,岩波書店,2015年						
講義概要・ 一般目標	大気系,水系,陸生生物に対して地球さらに現在では,地球資源の有限性を踏きた結果,世界の環境問題は深刻さを増地球が今後も持続可能な社会を形成しいて山積みする課題を解決すべく,喫緊おける「持続可能な循環型社会」の構築れの立場で,時には協働しながら,取り	きまえながら している。 が続けるため なに立ち向か でを踏まえっ	うも, かには かわれ て, 国	産業、生ない。	と経済社 活環境, らない状 社会・企	会が著し 地域環境 況にある 業・行政	い活動を が、地球環 。21世紀 、で個人か	進めて 境にお 社会に
到達目標	21世紀は「環境の世紀」である。土壌から、国際社会が直面している資源枯渇国際レベル、国内レベルにおける資源物ランスある発展に関する課題を考察する会的システムとその実践方法を理解し、て、環境リスクマネジメントの分野からる。	R化の問題 質のフロー 。そのう。 望ましい	こつい -の現 えで, 創造的	いて, 状を 循環 社会	事例を挙 把握し, 型社会構 の在り方	げて議論 「環境・資 築に向け を学ぶ。	iする。加 資源・経済 -て求めら このこと	1えて, 針」のバ られる社 こを通し
評価方法	課題レポート(50%),科目修了試験(50)%) による	総合詞	平価				
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。							
学 修 の進 め 方	テーマ全般を理解することを目的に、レ り組みやすくするためのポイントに忠実 また、提出前にメールをしっかり活用し フィードバックとして、提出された課題	にまとめを てアドバ 1	を 行う イスを	よう, 受け	学修を ましょう	進めてく; 。		■成に取
教 員メールアドレス	junoda618@gmail.com							

	課題内容							
	レポート課題 消費社会(生活)の変遷と循環型社会の到来について,ポイントを踏まえなが 説明しなさい。							
第 1 回	レポート作成の ポ イ ン ト	社会の消費システムと環境影響は相互に強い関係があり、現代の快適を求める消費生活は環境負荷の発生そのものである。①昭和(戦前戦後)と平成時代の暮らしの違い、②耐久消費財所有量・家族構成から見た生活の変化、③環境問題発生の背景にある暮らしの変化要因。これら3点を論じながらまとめること。(A4用紙、40字×35行、4枚程度)						
<u> 민</u>	参考文献	石橋春男編著:環境と消費者,慶應義塾大学出版会,2010年 間々田孝夫:消費社会論,有斐閣コンパクト,2000年 (文献)堀眞由美:消費社会の変遷と消費行動の変容,中央大学,2013年						
	 レポート提出期限 	令和4年6月30日(木)						
	レポート課題	日本全体の資源・エネルギーの流れの変化について,ポイントを踏まえながら,物質フロー(マテリアルフローともいう)を用いて説明しなさい。						
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	循環型社会を構築するためには、社会全体がどれだけの資源を採取、消費、廃棄しているか、物質フローを的確に把握することで廃棄物の発生抑制と循環利用促進につながる。マテリアルフローの経年的なデータ解析からまとめること。(A4用紙、40字×35行、4枚程度)						
	参考文献	我が国の物質フロー(最新版:環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書) (社)産業環境管理協会:リサイクルデータブック2020 (財)クリーン・グリーン・センター:日本のマテリアルバランス2009, 2012年						
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)						
	レポート課題	資源・エネルギーの効率的利用から廃棄までを考慮した製品とサービスの提供を 図るうえで,ライフサイクルアセスメント(LCA)の社会的役割をまとめなさい。						
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	環境負荷の少ない経済社会システムの構築には、資源・エネルギーの入口側と汚染物質及び製品等の出口側の管理が不可欠である。ISO14040シリーズに規定するLCAの手法が消費社会にどのように適用されているか、複数の事例から具体的に取り組み内容を説明すること。(A4用紙、40字×35行、4枚程度)						
	参考文献	『LCA概論』,伊坪徳宏・成田暢彦・田原聖隆,産業環境管理協会編,2007年 (社)産業環境管理協会・LCA日本フォーラムのwebサイト,企業の関連サイトを参 照のこと。						
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)						
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。						

						開講年次	授業形態	単位数
科目名	開発経済学特論	担当教員	濱	島	敦博		T科目	4単位
テーマ	開発経済学の基礎的理論を理解した上で、地域の固有の発展論理							
使用するテキスト	・原洋之介『開発経済論』第2版 岩波	・渡辺利夫『開発経済学入門』第3版東洋経済新報社 2012年 ・原洋之介『開発経済論』第2版 岩波書店 2002年 (参考図書:マイケル・P・トダロ他『トダロとスミスの開発経済学』第10版 ピアンソ桐原 2010年)						
講義概要・一般目標	【講義概要】 開発経済学は、国家や地域が経済的に戦略を明らかにする研究分野である。基に構築された経済学上の発展モデルな発展モデルでは解釈することができて考察する方法を学習する。 【一般目標】 国際協力や開発論の分野の研究を進めキルを修得する。	講義では, のうち, 基 ない事象に	多く <i>の</i> 礎的な 対し,	D国・ 以モラ 各国	・地域で― デルをいく 国・地域の	般的に観 つか学び 多様性や	察できる , 更に, 固有性に	事象を普遍的
到達目標	①開発経済学の基礎的なモデル(二重経済論モデル、輸入代替工業化、分益小作制度など)について理解する。 ②国や地域が辿る経済発展の経路が多様性を持つことに気付き、それぞれの地域の発展論理や固有性について目が向くようになること。							
評価方法	科目修了試験により評価。レポート:5	50%,単位認	定試	験:5	50%にて評	価する。		
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。							
学 修 の進 め 方	テキストの該当箇所を熟読し,疑問等あらばメールにて相談すること。							
教 員 メールアドレス	hamashi@kiui.ac.jp							

		課題内容								
	レポート課題	伝統部門(または農業部門)から近代部門(または工業部門)へと労働力が移動 することによって経済成長や工業化が引き起こされる過程を説明した「二重経済 論モデル」について,その枠組みと含意について説明せよ。								
第 1	レポート作成の ポ イ ン ト	経済学の専門用語を正確に把握して記述して下さい。								
	参考文献	度辺利夫著『開発経済学入門』第5章,原洋之介著『開発経済論』第5章, (参考:マイケル・P・トダロ他『トダロとスミスの開発経済学』第3章及び第7章)								
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)								
	レポート課題	農村における土地の契約関係において,分益小作制度の合理性について説明せよ。 ※以下の語句を用いること:「定額小作制」,「賃金労働制」。								
第 2		インセンティブ,取引費用,リスク,といった概念を用いながら,定額小作制及 び賃金労働制との比較の中で説明して下さい。								
	参考文献	原洋之介『開発経済論』第6章, (参考:マイケル・P・トダロ他『トダロとスミスの開発経済学』第9章)								
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)								
	レポート課題	開発途上国の経済問題について,地域の多様性や各国・地域が持つ固有の発展論理を踏まえて考察することの重要性と,地域研究的手法の有用性の是非について論じなさい。※以下の語句を用いること:歴史制度分析,経路依存性。								
第 3 回	レポート作成の ポ イ ン ト	経済システム(または経済制度)が多様化する要因について理解した上で,論じて下さい。								
- 1	参考文献	原洋之介『開発経済論』第3章,第10章,第11章								
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)								
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。								

						開講年次	授業形態	単位数
科目名	開発教育学特論	担当教員	矢	野奈	美	1・2年	T科目	4単位
テーマ	開発教育の重要性および方法 SDGsの目標達成の実践力をつける							
使用するテキスト	『開発教育 持続可能な世界のために』 田中治彦等 編 学文社 ISBN978-4-7620-1751-3 SDGsカリキュラムの創造 田中治彦・奈須正裕・藤原孝章 編著 未来を変える目標 SDGsアイデアブック 一般社団法人 Think the Earth							
講義概要・一般目標	【講義概要】 開発教育は、南北問題や国際協力を理解するための教育活動として始まった。現在では、自分と地域と世界とのつながりを認識し、公正で共に生きることのできる地球社会づくりに参加するための教育活動として、学校教育、社会教育、市民活動の中で実践されている。SDGs (持続可能な開発目標)とは国連の持続可能な開発のための国際目標であり、17のグローバル目標と169のターゲットからなる。 この講義では、開発教育・SDGsの内容を理解することにより、SDGsの目標達成に主体的に関わっていく態度を育んでいきます。 【一般目標】 ・開発教育の基礎を学び、その重要性・必要性を理解する。 ・SDGsを理解し、目標達成の実践力をつける。							
到達目標	・開発をめぐる問題から、開発教育の語・SDGsの目標と実践方法を修得する。	理論と意義	を理解	する。				
評価方法	課題レポート40%,科目修了試験60%	 こより評価。						
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。							
学 修 の進 め 方	・開発教育とSDGsの基本を学び,実践力をつけていきます。 ・レポートはテキスト等からまとめる課題と自らの実践や考えからまとめる課題があります。 ・フィードバックとして,提出された課題レポートにコメントを返します。							
教 員メールアドレス	bigwave7334@gmail.com							

		課題内容
	レポート課題	【課題1】開発教育の目標と教育内容を述べよ。 【課題2】SDGs学習に至るまでの開発教育について述べよ。
第 1	レポート作成の ポ イ ン ト	開発教育の基礎知識を参考文献,論文等を参考にしてまとめる。
	参考文献	・SDGsと開発教育(学文社) ・SDGsカリキュラムの創造(学文社)
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
	レポート課題	【課題3】「SDGsと何か」SDGsが国連で採択された経緯や社会背景を述べよ。 【課題4】SDGsの目標達成するために,自分にできること述べよ。
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	・SDGsが国連で採択された経緯や社会背景をまとめる。 ・SDGsの17の目標を示し,その中で自分にできることをまとめる。
	参考文献	・SDGsと開発教育(学文社) ・SDGsカリキュラムの創造(学文社) ・未来を変える目標 SDGsアイデアブック(Think the Earth)
	 レポート提出期限 	令和4年9月30日(金)
	レポート課題	【課題5】開発教育・SDGs学習を展開する活動案を作成する。 ※学校での学習指導案,社会教育等での活動計画どちらでもよい。
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	指導者の立場となって開発教育,SDGsを推進する活動案を考え作成する。 授業の学習計画(学習指導案),活動計画いずれでもかまわない。
	参考文献	・SDGsと開発教育(学文社) ・SDGsカリキュラムの創造(学文社) ・未来を変える目標 SDGsアイデアブック(Think the Earth)
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。

### 17 17 17 17 17 17 17 1	•							
アーマ がら理解する。 『人類生態学』東京大学出版会 大塚柳太郎・河辺俊雄他 2002年 『地球人口100億の世紀一人類はなぜ増え続けるのかー』ウェッジ選書 大塚柳太郎・鬼頭宏 1999年 『人口統計学』古今書院 岡崎陽一著 1999年 『人口学への招待 少子・高齢化はどこまで解明されたか』中公新書 河野稠果 2007年 人口統計で用いられる各種人口指標について理解する。 1. 形式人口学と実体人口学 2. 人口構造 (男女・年齢別構造と高齢化) 3. 死亡・疫学的転換 4. 生命表・平均余命 5. 出生・近接要因 6. 移動 7. 人口増加 8. 人口問題 (先進国および開発途上国) 人類生態学(human ecology)の分野から人口問題を理解する。 1. 人類生のなかでの人口問題 2. 人口支持力(carrying capacity)と人口密度 3. 伝統社会における事例 4. 人口転換(demographic transition) 5. 人口からみた人間 6. 現代の人口問題 7. 環境問題と人間 人口統計で用いられる各種人口指標を理解するとともに、先進国と開発途上国における人に認定している。 野価方法 課題レポート40%、科目修了試験60%により総合評価する。 オフィスアワー Eメールを使用して実施する。 オフィスアフー Eメールを使用して実施する。	科目名	人口学特論	担当教員	末吉秀	-			
使用する テキスト 『地球人口100億の世紀-人類はなぜ増え続けるのか-』ウェッジ選書 大塚柳太郎・鬼頭宏1999年 『人口統計学』古今書院 岡崎陽一著 1999年 『人口統計で用いられる各種人口指標で理解する。 1. 形式人口学と実体人口学 2. 人口構造 (男女・年齢別構造と高齢化) 3. 死亡・疫学的転換 4. 生命表・平均余命 5. 出生・近接要因 6. 移動 7. 人口増加 8. 人口問題 (先進国および開発途上国) 一般目標 人類生態学 (human ecology) の分野から人口問題を理解する。 1. 人類史のなかでの人口問題 2. 人口支持力 (carrying capacity) と人口密度 3. 伝統社会における事例 4. 人口転換 (demographic transition) 5. 人口からみた人間 6. 現代の人口問題 7. 環境問題と人間 人口統計で用いられる各種人口指標を理解するとともに、先進国と開発途上国における人間題の違い、環境問題と人間 人口統計で用いられる各種人口問題との関連、問題解決のための方策を考えることができるよになる。 評価方法 課題レポート40%、科目修了試験60%により総合評価する。 オフィスアワー Eメールを使用して実施する。	テーマ	人口統計の基礎を学修した後,今日の人口問題を環境・社会経済・保健医療などと関連づけながら理解する。						
1. 形式人口学と実体人口学 2. 人口構造 (男女・年齢別構造と高齢化) 3. 死亡・疫学的転換 4. 生命表・平均余命 5. 出生・近接要因 6. 移動 7. 人口増加 8. 人口問題 (先進国および開発途上国) 横撃 (human ecology) の分野から人口問題を理解する。 1. 人類史のなかでの人口問題 2. 人口支持力 (carrying capacity) と人口密度 3. 伝統社会における事例 4. 人口転換 (demographic transition) 5. 人口からみた人間 6. 現代の人口問題 7. 環境問題と人間 人口統計で用いられる各種人口指標を理解するとともに、先進国と開発途上国における人間関節の違い、環境問題と人同問題との関連、問題解決のための方策を考えることができるよになる。 評価方法 課題レポート40%、科目修了試験60%により総合評価する。 オフィスアワー Eメールを使用して実施する。		『地球人口100億の世紀-人類はなぜ増 1999年 『人口統計学』古今書院 岡崎陽一著	『地球人口100億の世紀-人類はなぜ増え続けるのか-』ウェッジ選書 大塚柳太郎・鬼頭宏著 1999年 『人口統計学』古今書院 岡崎陽一著 1999年					
到達目標 問題の違い,環境問題と人口問題との関連,問題解決のための方策を考えることができるよになる。 評価方法 課題レポート40%,科目修了試験60%により総合評価する。 オフィスアワー Eメールを使用して実施する。		人口統計で用いられる各種人口指標について理解する。1. 形式人口学と実体人口学2. 人口構造 (男女・年齢別構造と高齢化)3. 死亡・疫学的転換4. 生命表・平均余命5. 出生・近接要因6. 移動7. 人口増加8. 人口問題 (先進国および開発途上国)人類生態学 (human ecology) の分野から人口問題を理解する。1. 人類史のなかでの人口問題2. 人口支持力 (carrying capacity) と人口密度3. 伝統社会における事例4. 人口転換 (demographic transition)5. 人口からみた人間6. 現代の人口問題						
オフィスアワー Eメールを使用して実施する。	到達目標	人口統計で用いられる各種人口指標を理解するとともに,先進国と開発途上国における人口 問題の違い,環境問題と人口問題との関連,問題解決のための方策を考えることができるよう になる。						
	評価方法	課題レポート40%,科目修了試験60%により総合評価する。						
	オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。						
す	学 修 の進 め 方	まずはテキストを通読すること。レポート課題等で不明な点はEメールで質問すること。 フィードバックとして,提出された課題レポートにコメントを付し返却する。						
教 員 sueyoshi@kiui.ac.jp	• • •	sueyoshi@kiui.ac.jp						

		課題内容				
	レポート課題	アジア諸国の健康・人口・社会経済指標から2指標(3組)を選んで散布図に描き,それぞれの関連について考察しなさい。				
第 1	レポート作成の ポ イ ン ト	参考文献に示したデータベースを基にアジア諸国の健康・人口・社会経済指標の うち2指標(3組)を選んだ後散布図を描き、2指標間の関連を考察する。				
	参考文献	Population Reference Bureau (http://www.prb.org/), World Health Organization (http://www.who.int/en/)から二次データを入手する。				
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)				
	レポート課題	開発途上国における人口転換についてJ. ボンガーツの近接要因と関連付けながら 考察しなさい。				
第 2	ポ イ ン ト 画が出生率の低トに及ほす影響を埋解すること。					
	参考文献	Bongaarts, J., Potter, R. G. (1983) Fertility, Biology, and Behavior. Academic Press. 適宜プリントを配布する。				
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)				
	レポート課題	人口問題に関する学術論文を要約し,興味深かったことを述べなさい。				
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	参考文献に示した学術雑誌などから人口問題に関して興味のある学術論文3編を選定し要約する。その際、研究の背景と方法、問題の所在を理解すること。				
回	参考文献	Journal of Biosocial Science (Cambridge Univ. Pr.), Studies in Family Planning (Population Council), Population Development Review (Population Council)などの学術雑誌から文献を収集する。本学のデータベースProQuestなどを活用することも可能。				
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)				
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。				

A) = 5				+ -	開講年次 授業形態	単位数		
科 目 名 	国際文化特論	担当教員	小谷	真 吾	1・2年 T科目	4単位		
テーマ	文化の多様性と現代社会	文化の多様性と現代社会						
使用するテキスト		こわたる人類	便の謎』(上、下)	ジャレド・ダイ	イアモン		
講義概要・ 一般 目標	概要:文化の多様性は、グローバル化のすすむ現代世界において、他者を理解するために必ず踏まえておくべき事象である。本講義では、特に環境利用システムの差異によってもたらされる文化の多様性について理解を深めることを目的とする。冒頭にあげたテキスト、講師のかかわってきた研究、あるいは受講者が興味を持つテキストの講読を通じて、文化の多様性の構築過程について、歴史的、および機能的考察を加えていく。 目標:本講義を通じて、国際協力の場における他者理解の視野養成を主な目的とする。特に、文化人類学で重視される文化相対主義の概念を紹介することによって、異文化理解における価値判断の相対化を試みる。							
到達目標	 文化の多様性にかんする学術的著作物の最新動向把握 学術的著作物に対する批判的レビュー 文化の多様性と環境利用システムの関係についての理解 文化相対主義の概念把握 							
評価方法	レポート課題の提出状況:50% 課題	の学術的到	達度:50%					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。							
学 修 の進 め 方								
教 員 メールアドレス	odani@faculty.chiba-u.jp							

	課題内容							
	レポート課題	文化の多様性と環境利用システム						
第 1 回	レポート作成の ポ イ ン ト	参考文献に挙げたテキストを精読し、プロローグ、1~19章、およびエピローグまで内容を要約しなさい。その上で、テキストであまり触れられていなかった「日本」について、その環境利用システムの特徴と世界史の中での位置を、筆者の主張を批判的あるいは肯定的に取り入れながら論じなさい。要約と議論を合わせて3000字程度でまとめること。						
	参考文献	・病原菌・鉄 : 一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』(上,下) ジャレダイアモンド著(倉骨彰訳) 草思社 2000年						
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)						
	レポート課題 現代社会と文化の多様性							
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	受講者の専門,および研究テーマに応じて講読する文献を指示するので,下記教員メールアドレスまで連絡すること。文献を精読したうえでの3000字程度のレポートを執筆する。						
回	参考文献	適宜指示する						
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)						
	レポート課題	異文化理解における多様な視点						
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	受講者の専門,および研究テーマに応じて講読する文献を指示するので,下記教員メールアドレスまで連絡すること。文献を精読したうえでの3000字程度のレポートを執筆する。						
回	参考文献	適宜指示する						
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)						
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。						

科目名	地域調査法特論	担当教員	-	吉 秀本 敦		開講年次 1・2年	授業形態 TS科目	単位数 4 単位
テ ー マ	地域調査に必要な基礎知識および統計分析スキルの習得							
使用する	1)『フィールドワークの技法-問を育	でる, 仮説	をきたえ	える』	新曜	社 佐藤	郁哉 20	002年
テキスト	2) 『バイオサイエンスの統計学-正し 1990年	/く理解する	までの乳	実践理論	i Lí	南江堂	市原清志	ξ
講義概要・ 一般 目標	人間社会のさまざまな現象をある地域に限定し、実証的、科学的に分析する手法に地域調査法がある。本講義では、地域調査の目的、内容、対象、方法などを理解するとともに、データ分析に必要な統計学の基礎知識およびフィールドワークの手法の習得を目的とする。スクーリングにおいては、1)統計学の数学的な意味を理解した後、実際に以下の項目に関して統計分析を行う。 ① 基本統計量とグラフ ② 独立(関連)2群間t検定 ③ 一元配置分散分析 ④ 二元配置分散分析 ⑤ 相関と回帰 ⑥ ロジスティック回帰分析 ⑦ 因子分析 ⑧ 判別分析 ⑨ カテゴリ変数の分析							
到達目標	地域調査に必要とされる基本的な統計	分析・フィ	ールドワ	フークか	理解	できるよ	うになる	0
評価方法	課題レポート30%, スクーリング参加	1度10%,科	目修了記	式験60%	によ	り総合評	価する。	
オフィスアワー	77- 講義終了後, または E メールを使用して実施する。							
教 員 メールアドレス								
	 スクーリング学修計画							

- 1. 統計学入門(座学:山本担当)
- 2. 統計分析ソフトSPSSの説明(座学:末吉担当)
- 3. 統計演習:基本統計量とグラフ 独立・関連2群間t検定 一元配置分散分析(末吉担当)
- 4. 統計演習:相関と回帰 ロジスティック回帰分析 因子分析 判別分析 カテゴリ変数の分析(末吉担当)
- 5. フィールドワーク:南あわじ市津井地区の現状と課題(外部講師)
- 6. フィールドワーク:調査計画の立案 調査対象者・方法の決定(末吉担当)
- 7. フィールドワーク:調査の実施(末吉担当)
- 8. フィールドワーク:データの分析 結果に対する考察 発表 (末吉担当)

	課題内容					
	レポート課題 フィールドワークの目的と方法					
第 1		自分の専門分野と関連しまた興味のあるテーマについて,だれを対象にどのような調査を行えば何が分かるか(分かりそうか)をより具体的に述べること。				
	参考文献	『フィールドワークー書を持って街へ出よう(増訂版)』新曜社 佐藤郁哉 2006年 『生態人類学を学ぶ人のために』世界思想社 秋道智彌・市川光雄・大塚柳太 郎編 1999年				
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)				
	レポート課題	レポートの作成(テーマは各自の専門分野を考慮し適宜指定する)				
第 2		フィールドワークで得たデータの分析結果をもとに,レポートを作成する。そ D際,目的,対象と方法,結果および考察を明確に記すこと。				
	回参考文献適宜プリントを配布する。					
	レポート提出期限 令和4年9月30日(金)					
	レポート課題	先行研究の比較検討				
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	自分の専門分野と関連する学術論文(調査研究)を3本選び,調査対象者や分析方法などを比較検討する。本学のデータベースProQuestなどから学術論文を入手する。				
	参考文献	『生物学を学ぶ人のための統計のはなし-きみにも出せる有意差』文一総合出版 粕谷英一 1998年				
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)				
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。				

	<u>, </u>	,			, ,		
科目名	学術英語特論	担当教員	城山;	光 子	開講年次授業1・2年T和		
テ ー マ	英語の学術論文を読むために必要とされる学術英語の基礎を身につける						
使用するテキスト	東京大学教養学部ALESSプログラム(編 (注:本書は主に理系の研究を行う学生	『Active English for Science: 英語で科学する―レポート,論文,プレゼンテーション』 東京大学教養学部ALESSプログラム(編) 東京大学出版会,2012年 (注:本書は主に理系の研究を行う学生を対象にしたテキストである。ほぼ全文が英語で書かれているため,履修にあたっては基礎的な英語力が必要である。)					
講義概要・ 一般目標	国際協力に関する研究を計画・実施するには、日本語の論文だけでなく英語で書かれた論文を精読する能力が求められる場合も多い。本講では英語で学術論文を読むために必要な学術英語の基礎を身につけるため、英語の学術論文の構造、各セクションの機能、用いられる英語の表現や語法を、英語で書かれたテキストを使用して学ぶ。さらに、各自の専門分野に関する英語の学術論文を精読する。 テキストで取り扱う範囲: 1章: 科学コミュニケーション 2章: 学術論文入門・IMRaD概要 3章: 仮説を立てる、実験をデザインする 4章: 情報の収集・要約・統合 5章~8章: 論文のIMRaD(背景・方法・結果・考察)のそれぞれの構造・機能・語法 9章: 論文のタイトルと要旨 Appendix 2: 学術英語に適切・不適切な表現						
到達目標	・英語の学術論文の一般的な形式(IMRAD等)を習得する。 ・英語の学術論文を読み,理解するために求められる頻出英語(語彙や表現)を習得する。 ・各自の専門分野に関する英語の学術論文を精読できるようになる。						
評価方法	提出課題レポート 60%,科目修了試験 40%により総合的評価を行う。						
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。						
学 修 の進 め 方	 1) テキストの指定範囲を熟読し、学修した内容をまとめること 2) 担当教員の指示に従いレポートの作成を行うこと 3) レポートで不明な点や質問がある場合は担当教員にメールにて相談すること 4) レポートはドラフトができた段階で必ず担当教員に一度メールで送り、指導を受けること 5) Eメールでのコミュニケーションを基本とするが、Teamsを活用した指導も可能 6) フィードバックとして、提出されたレポートにコメント返すので参照すること 						
教 員 メールアドレス	shiroyama@azabu-u.ac.jp						

		課題内容
	レポート課題	論文とは何か,どのような英語の語法が用いられるのかを学ぶ
第 1 回	レポート作成の ポ イ ン ト	テキストの1〜4章それぞれのPart 1とPart2を通読し、 a. 初見の英単語・熟語を抜き出し、Microsoft ExcelやNumbersなどを用いて、 英日対照表を作成しなさい。 注1: Exercise等で使用されている特定分野の専門用語は除くこと 注2:表のサンプルを希望する場合は担当教員にメールすること b. 1〜4章のPart 1とPart 2の内容を要約し、日本語で説明しなさい(2,000字程 度)。
	参 考 文 献	『最新 英語論文によく使う表現 基本編』﨑村耕二著 創元社 2017年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
	レポート課題	論文の構造と英語の語彙・表現を学び、説明する
第 2 回	レポート作成の ポ イ ン ト	テキストの5~9章それぞれのPart 1とPart2, およびAppendix 2・5を通読し, a. 初見の英単語・熟語をMicrosoft ExcelやNumbersなどのソフトを用いて, 英 日対照表を作成しなさい。 注:Exercise等に使用されている特定分野の専門用語は除くこと b. 論文のIMRad (背景・方法・結果・考察) および論文要旨の構造と機能をそれ ぞれ要約し,日本語で説明しなさい (2,000字程度)。
	参考文献	『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』酒井聡樹著 共立出版 2015年 『最新 英語論文によく使う表現 発展編』﨑村耕二著 創元社 2019年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
	レポート課題	英語論文を精読し,自分の考えを論理的に述べる
第 3 回	レポート作成の ポ イ ン ト	a. あなたの研究に関連する先行研究の英語論文(原著論文)を 1 編精読し、その内容を IMRaDのセクションごとに日本語でまとめなさい(合計2,000字程度)。 注:論文の選定については事前に担当教員に相談すること b. 上記で精読した論文を批判的に検討し、あなたの考えを論理的に述べなさい(1,000字程度)。 注:引用文献の表記方法は大学院要覧の『修士学位論文作成要領』「2.文献の表記等に関する注意」を参考にすること
	参考文献	論文検索サイトを使用し,原著論文を入手すること 入手が困難な場合は担当教員に相談すること
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	特別研究 開講年次 授業形態 単位数 1~2年 TS科目 6単位
担当教員	秋 葉 敏 夫 ・ 末 吉 秀 二 ・ 武 徹 ・ 松 葉 隆 司 大 下 浩 司
テーマ	研究テーマは,受講生各自の研究計画書をもとに担当教員の助言を得て決定します。
使用する テキスト	各自の研究テーマ,研究計画,研究の進捗状況に応じて,指導教員が助言・指示します。
講義概要・ 一般 目標	指導担当の教員より指示されたテキストを使用して、自学自習を行ってください。 スクーリング開催前に、教員から課題設定・研究計画の作成についての指示があります。その指示に基き、スクーリングに向けての準備を行ってください。 スクーリングでは、対面授業による個別およびグループでの研究指導・論文執筆指導を行います。その後は引き続きテキストによる自学自習、課題の作成、メールでの教員とのやりとり、スクーリングを繰り返し、研究レベルを向上させ、最終的には修士論文の作成へと繋げていきます。 本科目での主指導担当の教員の主な研究プロフィールの概要は(P.39~P.41、P.43)のとおりです。ただし、国際協力研究そのものが学際的であり、受講生各自の研究テーマやフィールドも多様ですので、担当テーマは上の概要内容だけに限定されません。実際の指導担当の決定においては、受講生ひとりひとりの能力を最大限ひきだせるように十分に配慮します。なお、本研究科では新入生オリエンテーション時に、研究活動における不正行為を防ぐため、文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、研究倫理教育を行います。
到達目標	研究の目的,方法,分析,考察,および文献の引用など,学術論文の作成に必要な知識が修得 できるようになる。
評価方法	研究へ取り組む姿勢および発表会の内容で評価する。
オフィスアワー	 講義終了後,またはEメールを使用して実施します。
学 修 の進 め 方	指導教員の指示に従って研究を進めるが、研究は学生が主体的に行うものであることを自覚すること。疑問点などは積極的に調べること。研究ノートなどを活用し、研究プロセスの管理を 行うこと。指導教員には定期的に研究の進捗状況を報告し、課題などを相談すること。
教 員 メールアドレス	秋 葉 敏 夫:akiba@phoenix.ac.jp 末 吉 秀 二:sueyoshi@kiui.ac.jp 武 徹:take@kiui.ac.jp 松 葉 隆 司:matsubat@phoenix.ac.jp 大 下 浩 司:oshita@kiui.ac.jp

スクーリング学修計画

- 1. 個別及びグループでの研究指導(1年次:夏期スクーリング)
- 2. 個別及びグループでの研究指導(1年次:夏期スクーリング)
- 3. 個別及びグループでの研究指導(1年次:夏期スクーリング)
- 4. 研究計画一次発表(1年次:夏期スクーリング)
- 5. 研究計画一次発表(1年次:夏期スクーリング)
- 6. 研究計画一次発表(1年次:夏期スクーリング)
- 7. 研究計画一次発表(1年次: 夏期スクーリング)
- 8. 個別及びグループでの研究指導(1年次:冬期スクーリング)
- 9. 個別及びグループでの研究指導(1年次:冬期スクーリング)
- 10. 個別及びグループでの研究指導(1年次:冬期スクーリング)
- 11. 個別及びグループでの研究指導(1年次:冬期スクーリング)
- 12. 研究計画二次発表(1年次:冬期スクーリング)
- 13. 研究計画二次発表(1年次:冬期スクーリング)
- 14. 研究計画二次発表(1年次:冬期スクーリング)
- 15. 研究計画二次発表(1年次:冬期スクーリング)
- 16. 個別及びグループでの研究指導(2年次:夏期スクーリング)
- 17. 個別及びグループでの研究指導(2年次:夏期スクーリング)
- 18. 個別及びグループでの研究指導(2年次:夏期スクーリング)
- 19. 特別研究中間発表(2年次:夏期スクーリング)
- 20. 特別研究中間発表(2年次: 夏期スクーリング)
- 21. 特別研究中間発表(2年次:夏期スクーリング)
- 22. 特別研究中間発表(2年次: 夏期スクーリング)
- 23. 個別及びグループでの研究指導(2年次:冬期スクーリング)
- 24. 個別及びグループでの研究指導(2年次:冬期スクーリング)
- 25. 個別及びグループでの研究指導(2年次:冬期スクーリング)
- 26. 個別及びグループでの研究指導(2年次:冬期スクーリング)
- 27. 特別研究最終発表(2年次:冬期スクーリング)
- 28. 特別研究最終発表(2年次:冬期スクーリング)
- 29. 特別研究最終発表(2年次:冬期スクーリング)
- 30. 特別研究最終発表(2年次:冬期スクーリング)

科目名	地域研究特論Ⅱ	担当教員	城	山 :	光子		授業形態 T科目	, ,
テーマ	国境を越えた広域の視点で,地域の開発課題を理解し,その解決方策を検討する。							
使用するテキスト	特になし							
講義概要・ 一般目標	の国別,国内セクター別や地域開発の また,国ごとにプロジェクトやプログ としても,その知見が類似の課題を抱 得る。本科目では,地域全体を見据え 鑑み,地域の政治,経済,文化,社会	講義概要:グローバリゼーションの進展と共に開発課題が国境を越えたものとなり、これまでの国別、国内セクター別や地域開発の視点のみでは開発支援が対応できない状況が起きている。また、国ごとにプロジェクトやプログラムを企画立案し、相手国政府と合意した上で実施したとしても、その知見が類似の課題を抱える近隣国に共有されず、開発協力の非効率性が発生し得る。本科目では、地域全体を見据えた国際協力プロジェクトや研究が実施されている現場を鑑み、地域の政治、経済、文化、社会などの視点で、地域の開発課題を先行研究やデータをもとに把握し、その中で特定の開発課題の解決方策を検討し取りまとめることを学修する。						
到達目標	1) 広域協力の意義を理解する 2) 地域の開発課題について,政治,経済,文化,社会など複数の視点でデータを収集できる 3) その上で,地域の開発課題を整理できる 4) 特定の開発課題に関し,詳細な分析を実施できる 5) その分析に基づき,開発課題の解決方策を検討できる 6) 開発課題の解決方策の方向性を提案できる							
評価方法	提出課題レポート 50%, 科目修了試験 50%により総合的評価を行う。							
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。							
学修の進め方	 多くの論文を読んで、多角的な視点をもつこと 国際機関のホームページや論文からデータを入手し、そのデータをベースに開発課題の把握を行い、整理、分析すること 複数の開発課題を扱うのは困難であるため、学生の経験や関心に沿った開発課題を選択し、レポート課題にどのように取り組むのか、担当教員と相談すること 担当教員の指示に従い、論文を読み込み、レポートの作成を行うこと Eメールでのコミュニケーションを基本とするが、Zoomなどを活用し対面指導も可能 							
教 員メールアドレス	shiroyama@azabu-u.ac.jp							

		課題内容
	レポート課題	地域研究のための英語論文講読
第 1 回	レポート作成の ポ イ ン ト	a. あなたが関心を持っている地域における英語論文(原著論文)を 1 編精読し、その内容を日本語でまとめなさい(2,000字程度)。なお、論文の選定については事前に担当教員に相談すること。 b. 上記で精読した論文を批判的に検討し、あなたの考えを論理的に述べなさい(1,000字程度)。引用文献の表記方法は大学院要覧の『修士学位論文作成要領』「2.文献の表記等に関する注意」を参考にすること(第 2 回・第 3 回のレポート作成時も同様)。
	参考文献	論文の入手が困難な場合は担当教員に相談すること。 戸田山和久(2012)『新版論文の教室 レポートから卒論まで』(NHKブックス)
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
	レポート課題	顧みられない熱帯病の対策における課題を把握し,解決策を検討する
第 2	レポート作成の ポ イ ン ト	a. あなたが関心を持っている地域における顧みられない熱帯病(Neglected Tropical Diseases)に関する論文を3編以上読み,対策の現状と課題をまとめなさい(1,500字程度)。なお,論文は英語で書かれたものを1編以上含むこととする。また,JICAの報告書は論文としては利用しないこと。 b. 上記でまとめた課題の中から1つを選択し,解決方策についてあなた自身の考えを論理的に述べなさい(1,500字程度)。
	参考文献	論文の入手が困難な場合は担当教員に相談すること。 顧みられない熱帯病については、次のURLから情報を得られる。 WHOホームページ (https://www.who.int) CDCホームページ (https://www.cdc.gov)
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
	レポート課題	地域との連携 フィールドワーク
第 3	レポート作成の ポ イ ン ト	あなたが関心を持っている地域でフィールドワークを実践するとしたら、どのような背景のある状況で、どのような課題に対してフィールドワークを行うかを述べなさい(3,000字程度)。先行研究のレビュー結果、フィールドワークの目的、具体的なデータ収集方法および分析方法も記述すること。
	参考文献	佐藤 郁哉(2002)『フィールドワークの技法』新曜社
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
提	出 方 法	web学修支援システムを利用し,教務部通信教育事務課へ提出する。